

「心と身体をみつめる日本鍼灸の叡智」

埼玉医科大学 東洋医学センター 山口 智
学校法人 呉竹学園 坂本 歩

本シンポジウムは、この度の学術大会の最終日に行われる東京宣言採択に向けて、企画されたものである。従って、宣言書の起草案の骨子となるⅠ日本鍼灸の歴史Ⅱ現状分析Ⅲ将来と課題について、起草案を作成した東京宣言起草委員会の委員の代表にシンポジストをお願いした。Ⅰの日本鍼灸の歴史については、本シンポジウムの前に行われる教育講演を受けて、特に日本の鍼灸発展に関して重要な事項を簡潔に説明いただく予定である。Ⅱの現状分析については、研究面と臨床面とに分け、お二人の先生に解説いただくこととした。Ⅲの将来と課題は、歴史と現状分析を受けて、現状の問題点を明らかにした上で、今後如何に日本の鍼灸を発展させていくかを提案していただくこととした。

鍼灸医療に携わる諸兄にとっては、現在の鍼灸の臨床、研究並びに教育、研修について少なからず課題をお持ちであると思料するところであるが、個々の問題点は議論しても系統的且つ総括的に話し合う場は、今までにはなかったかもしれない。そこで、このシンポジウムでは、多くの方々から意見を頂戴した結果として、歴史的事実や現状分析から課題となる問題点をできる限り抽出したものを報告したいと考えている。そして、日本の鍼灸が将来、今以上に広く汎用される療法となるためのひとつの方策を中心に検討し、シンポジウムの結論を導きたいと考えている。

シンポジウムを通じて、宣言書の内容をより深く理解していただき、大いに議論をしていただくことを期待している。

<座長>

■山口 智（やまぐち さとる）

埼玉医科大学東洋医学センター 講師



略歴：(財)東洋医学技術研修センター特別研修課程・埼玉医科大学医学部専攻生課程修了、医学博士。

(財)東洋医学技術研修センター研究員を経て埼玉医科大学第二内科東洋医学部門（専任）、同大学東洋医学科主任。現在、埼玉医科大学医学部講師（東洋医学センター所属）。筑波大学・明治薬科大学講師を兼任。

主な学会活動

全日本鍼灸学会前理事・関東支部学術局長、埼玉鍼灸学会会長、第58回全日本鍼灸学会学術大会々長。日本自律神経学会、日本温泉気候物理医学会、日本頭痛学会の各評議員。日本東洋医学会および日本統合医療学会代議員。第15回日本統合医療学会大会副会長（2012年1月）

主な研究業績

「鍼治療が瞳孔反応に及ぼす影響」のほか、頭痛や自律神経などに関する原著58編、総説39編、著書12編。

■坂本 歩（さかもと あゆみ）

学校法人 呉竹学園 理事長



略歴：東京医科大学卒業、東京医科大学大学院博士課程修了、医学博士
東京医科大学衛生学公衆衛生学講師を経て現職。

主な学会活動

（社）全日本鍼灸学会 総務部長、副会長を歴任し現在参与
日本衛生学会、日本体力医学会、日本ストレス学会評議員など

主な研究業績

「激しい超持久運動と最大運動負荷試験が生体の免疫系に及ぼす影響」
「近赤外線分光法を用いた鍼灸刺激による筋血液量測定についての検討」